

## 百八の煩惱

住職 福島伸悦

今年は、新型コロナ騒動であつという間に過ぎ去ってしまったような気がします。

仏教では、煩惱は百八つあるといます。その基本は、貪（とん）瞋（じん）痴（ち）の三種で、これを三毒煩惱と言います。むさぼりの心、いかりの心、真理を求めようとしない愚かな心で、煩惱は迷いであり苦しみの元です。だから一刻も早く取り除きたいと思うのが人間の自然な願いです。

年の暮れに除夜の鐘一つ一つに思いを込めて煩惱を取り除き、さっぱりした気持ちで新しい年を迎えたいというのがいつわらない気持ちです。

煩惱というのは、人間が本来持っている生存欲に基づいた根源的な欲です。煩惱全てを否定しては生きていけません。欲を完全に取り除くというのは不可能なことなのです。欲望を絶てしまえば世の中の経済活動は成り立たなくなります。

今、新型コロナ禍にあつて Go To トラベル、Go To イートなどのキャンペーンを推し進めるのは経済活動を止めないためです。感染拡大を防止するのは矛盾しますが、欲望を悪として拒否できない状態だということです。

お釈迦様は、むしろ人間の欲望を積極的に活用して、よりよい方向に人間の行動を向かわせる原動力にした方がよいとおっしゃっています。

つまり、その煩惱、欲望を自分のためにだけ発揮しては、やはり苦のもとになることは間違いありません。それを他の為に転用し、活用すること、それが欲望を生かす本来の道だと言っています。大乘仏教では、利他行を説きますが、煩惱・欲望を他の人のために役立てるように形を変えたらよいのだと思います。

新しい年を迎えるにあたって自分が持つ煩惱を他のため、社会のために生かすことを改めて考え、実践していきたいものです。